

東部町文化協会だより

第4号

発行 63.1.20
東部町文化協会
印刷
東鉄印刷(株)

文化と生涯学習

東部町公民館長 小山定雄

社会構造の変化に伴ってわが東部町の人々の学習欲求は非常に高まり、生活の各領域にわたって多様な学習活動が活発に行なわれております。一方、著しい科学技術の進歩による高度情報化の社会の進展、国際化社会、高齢化社会への対応等、新たな知識や技術・能力を習得していく必要性が高まり人びとの生涯にわたる学習を可能にする学習社会の建設が重要な課題となってきました。文化は学習によって人間が社会から獲得するものであって、文化の創造は人間が経験や知識を言語のような表現を用い、伝播、蓄積することによってなされると言われます。又文化は教わるもの、教えられるものであります。即ち、個人個人が他の個人と社会的相互作用を通じて文化を身につけた成員として成

長する過程であり、全成員によって共有される財産でもあります。この中で私共は人間として生きてゆくための行動の善しあしや、美醜の基準など共通な発想や思考などの考え(行動・態度)が出来るゆくと思っています。さて生涯教育のはたらきの一つは、人々全体を社会の文化開発に向かって積極的な役割を演ずることの出来る状態におくような力を添えることにあると思えます。私共が自主的な活動を通して豊かな人間性を養い、相互の研修を深める事は、生きがいのある生活への指向であり、東部町文化の向上に寄与し、すばらしい町づくりに通づるものであると確信するものであります。協会の一層の発展を祈念するものであります。

懸案の

文化講演会開かれる

東部町文化協会長 小林 進

去る七月十一日中央公民館において、漫画家の富永一朗先生を迎え文化協会が主催し、二百五十名の出席のもとで町民大学の一講座として文化講演会を開催しました。このように盛大に文化講演会が実施できたことは、協会員全員の御協力のためものと深く感謝申し上げます。そもそも文化講演会は協会創設以来の懸案事項であり、ようやく念願かなって実施することが出来、東部町の文化向上に繋がることと非常に意義がありよろこばしいことと思えます。

さて、富永先生の講演は——マンガとロマンと人生——「大きな素直な心と人生みな恩人」とのテーマで豊富な人生体験からユーモアを込めて語った内容は非常にためになり、楽しく聞くことができました。有意義な講演会となりました。今後年に一度はこうした文化講演会を計画したいと考えています。尚、この講演会を録音してありますので、聴講御希望の方は中央公民館事務局へお問い合わせください。



絵画特別展によせて

副会長 丸山 光夫

昭和六十二年度の事業の一つに昨年十一月一日～三日間文化会館で教育委員会・公民館・文化協会共催による丸山晚霞、関晴風、小林邦二、荒井茂雄、白鳥映雪画伯の絵画特別展が開催されました。

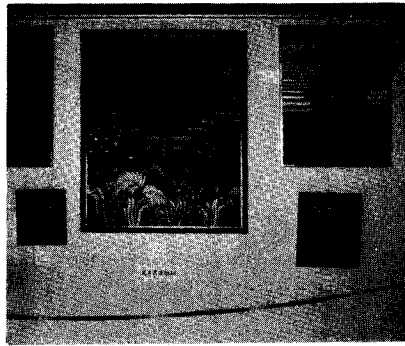
丸山晚霞画伯(西町)は既に多くの皆さんに親しまれ、町三十周年特別展にも多くの作品を展覧されましたが関晴風画伯(大石)の作品が数多く展示されたことは大変好評でした。晚霞先生を師と拝ぎ日本水彩画会の発足に奔走し朝鮮半島に風俗の写生に師と共に旅をされた作品は多いようです。

小林邦二画伯(田中)も最近多くの個展を開催され注目される自由絵画の制作に活躍されて居られ多くの作品が町で始めて公開され今後の益々の活躍が期待されます。

荒井茂雄画伯(田中)は新制作協会に所属し、デザイン風の新しい作風による絵画美術の画家として将来を期待される先生で多くの作品を展示していただきました。白鳥映雪画伯(小諸市出身)は一昨年日展で内閣総理大臣賞を受賞されたことは新聞紙上等で御存じの方も多いと思います。

丸山晚霞先生の紹介で伊東深水先生の画塾に入門し日展の審査員、評議員を務め現在日本画界において美人画の第一人者と高く評価され現役の画家として活躍中です。

貴重な文化財的な絵画、刃剣等の豊富な文化を広く公開展示して後世にその遺産を残し、音楽文化の発表発展のためにも専門の音楽ホールや美術館、博物館等町民待望の文化の殿堂の早期実現を心から期待して特別展の紹介とします。



画の友

絵画部会 山辺 甲子男

町民憲章第一項に、自然を愛し緑あふれる美しい町にします。と制定され東部町美術会は現在四十余名が、自分なりの画を描きながら、先輩諸氏の指導と、更に会員相互で研さん向上につとめ、町の

文化活動に寄与しております。さて六十二年の歩みを、一月静物、二月房総早春写生、三月人物、四月公民館作品発表、五月戸隠写生、六月湯の丸写生、七月佐久美術館丸山晚霞展鑑賞、八月静物、九月懐古園写生、十月海野宿写生、十一月総合文化展出品、十二月静物写生等でした。全員参加は無理で写生は十四、五名、楽しく勉強を味わっております。さて現在は物より心が問われております。ものが豊かになり、又高齢化の進むなかで、なにか自分の生きがい、又出来る事に、心のやすらぎを求めます。画は感動し制作し、他人にみせるのでなく、自分に見せる画をかこうではありませんか。一人でも多く仲間となり新しい人生観に出発しましょう。

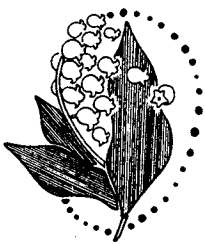
第九に参加して

音楽部会 関 幸子

毎年十一月、十二月になるとテレビ・ラジオから流れてくるベイトーベンの「第九」を押し迫った中に一服の清涼剤の心地好さで聞いてました。でも昨年は違います。私、「第九番歡喜の歌」をドイツ語で歌ったのです。昨年の三月コーラスの仲間と気軽に歌いましょうと参加したのですがとても大変で

した。

まず第一に英語も出来ない者がドイツ語で歌うことの重大さに気が付かず十一月の発表会を楽しみに練習に入りました。この「第九」を歌うチャンスも現在のコーラスグループの一員として今日まで歌い続けて昨年で二十周年を迎え多くの友と歌い、家族の理解の中で続けられた事に感謝し毎日気忙しい生活の中で一つの節目として歌えたらと思いました。「第九」の練習は思いのほか大変で厳しく練習が重なることに落ち込み何度かやめてしまおうかと、又先生の言葉に気を取り直して上田へ向かいました。当日十一月二十九日さあ本番です。オーケストラを前にして五百名の大合唱。今までの気持が全部込み上げて涙がポロポロ、でも全力を出して歌いました。結果は八十点、でも大成功、この時歌を続けてきた事に新ためて幸せを感じました。



唄を心の糧として

民謡部会 小泉 芳子

民謡の歴史は古く、昔の人は楽しいから唄うというより生活の苦労を少しでもうすめ、まぎらわす手だてとして唄ったと聞いています。それに唄を通してコミュニケーションも培われたでしょう。

又民謡は其の土地の歴史を伝承し生活の苦しみ、悲しみ、喜び、その土地／＼の風習が唄われていますが、其の自然の風景と素朴な表現は何処か神秘さに胸うたれるものがあります。

現在町の民謡部会に加盟されているグループは十五グループ、一七二名で構成されています。年に一度、三月の第二日曜日を発表会と定められ、日頃の練習の成果を思う存分発揮し唄う人も聴く人も一体となって素晴らしい唄声にしたり、身も心も洗われる思いが致します。本年は三味線、尺八の演奏に始まり、其の音色の素晴らしさに感動し身のひきしまる思いが致しました。八年のキャリアを重ねるに至りお互いの実力、向上振りは大変なものです。唄も去る事ながら、態度、姿勢、舞台度胸等々、仲々のものです。会員の中には最高位であります達人位を獲得

された方、又奥伝を得られた方が年々数を増し、年毎に進歩の足跡が顕著にうかがわれ、格調高い発表会の出来まます事は本当に喜ばしい事です。

人生八〇年時代といわれる今日限られた人生を、実りあるものにするか否かは、先ず一番に健康の保持、そして何か一つでいい、から自分に合った趣味を持ち、熱中出来る事と云われます。この両方を兼ね備え調和のとれたものと、自主しながら私も唄をこよなく愛し心の糧として十年を迎えようとしています。多くの方々との出会いがあり数々の教えに感謝しています。複雑化した今日、とかく地域の連帯感の薄れつ、ある中でコミュニケーションを計りながら自己表現の世界を豊かにして参りたいと思っております。

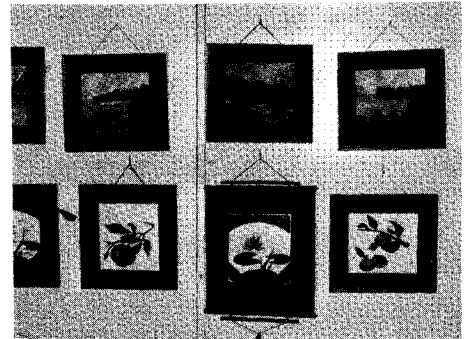


和の場

ちぎり絵柳生会 大滝 俊子

一昨年の教養講座のちぎり絵に参加させていただきました。最初の内は、思う様に紙が切れず、先生に手をかけていた。かなければ、作品になりませんでした。其の内に、草木、花、野沢菜、ほうれん草等の染めを覚えていた。き、其の花によつて空の色、水の色、草木の色と云う様に、染めは、一回でなく六回、七回と一枚の和紙に掛けて、染め上げるのです。染め上がった紙にも愛着を感じ、小さな小さなちぎりくずでも、大切に致し、年賀状に張ってお友達に差し上げますと大変喜んで下さいました。去年はアメリカの親類に風景、静物を張って差し上げました。ちぎり絵に入会して、お友達も大勢出来、私達のこれからの生き方などの話し合いをしたり、年に二回は泊りで出掛けまして、此の様にしたら、家の若い人達に喜ばれた、又漬物はこの様にした方がおいしいと云って、話し合つて楽しく過します。柳沢はまよ先生が良く見て下さいますから、新しく入会する方も気楽に入つて下さい。お待ち致しております。これからもっと勉強をして、良い作品を

作っていきたいと思います。



お知らせ

文化協会加盟の各団体が各々、一年間の勉強の成果を町中央公民館において次の予定で発表します。町民の多くの皆さんが、ご来場くださるようお願いしております。

◎ 東部町美術会展覧会

二月二十一日～二十四日 (AM 9～PM 10)

◎ 合唱祭 二月二十七日

◎ 人形発表会 三月五日～六日 (AM 9～PM 10)

◎ 民謡発表会 三月六日

◎ 民謡発表会 三月十三日

※合唱祭は夜七時～九時

民謡及び民謡は午前十時～四時

短歌詠草

(東部町短歌会)

児玉 悦子

紫蘇の花穂先に白く残りしが
ひそかに零れ風かよふらし

小林 久江

四万川の甌穴に淀む水青く
谷の落葉の片寄りて浮く

依田はや子

川岸を一羽潮げる白鳥はとき
ときをり瀬に立ち大きく羽振り

(東詠会)

柳沢 菊子

乙女らのしたたる血游にうめく声
いまも聞ゆるひめゆりの窟

清水 米子

ふるさとの新米兄の運びくれ
玄関におけり手紙を添へて

関 貴代子

霜かれし菊の根元に名札たて
長く愛せし花を片付く

(青葉の会)

関 義豊

雪の朝焚火を囲む人達の
粗野なる言葉に温もりのあり

小河原ときは

柿紅葉の溜り踏みつつ寺庭に
おくれがちなり夫の歩みは

瀬田やす子

脱穀機ぼつんと一台残るのみ
取壊されし納屋の跡地に

常に花の如く 美しい心で

華道教室 小林 順子

私は今年華道教室に入っていた
だき、遠州流の小林清枝先生のご
指導で楽しく勉強しながら、皆さ
んとのふれ合いの場も大切にして
おります。先生の教えの中に活け
花を習得するには実際に花材に手
をふれ親んで、流儀の花型を一つ
一つおぼえていくことと、四季の
移り変わりにも注意し、花材の特
徴、持ち味を活かして、山野水辺
の趣きを風流に活けることが出来
たら最高です。又心が平安であり
ます時、花は美しく仕上がります
ので花のように美しい心で稽古に
のぞみました。こ、まで至達する
には長い道程ですが、こんな
気持ちで少しづつ花の心を知り無理
のないお花を活け、いつの日か遠
州流の美しい線を身につけるよう
にと努力して勉強を続けたいと思
います。

厳しい現実の社会生活の中で少
しでも美しい花の心を悟ることが
できたらと玄関やお部屋、トイレ
の片隅にも一本の花を添えるだけ
でも心がなごみます。遠州
流への遠い道を、一本の花から一
歩一歩と近づいて先生への感謝と

明日への糧にしたいと思います。



新役員により

スタート

昭和六十二年三月三十一日で行
期満了となりました。旧役員に代
わり四月十八日の総会において次
の方々が選出されました。今後二
年間の任期でご苦労いただきます
が、会員の皆様のご協力をお願
いします。

- | | |
|-----------|-----------|
| 会長 小林 進 | 小林知美代(手芸) |
| 副会長 丸山光夫 | 岩下止代(人形) |
| 小林清枝 | 有賀正衛(菊花) |
| 山辺甲子男(絵画) | 児玉悦子(短歌) |
| 佐藤利秋(写真) | 石井補人(俳句) |
| 白鳥正志(書道) | 山崎良徳(陶芸) |
| 近喰和夫(彫刻) | 竹内貞良(盆栽) |
| 小泉芳子(民謡) | 貢甚一郎(音楽) |
| 小松久子(民踊) | 別府貞巳(古文書) |
| 深町太郎(詩吟) | 中沢喜雄(棋道) |

編集後記

掛川正水 (謡曲) 柳沢はまよ
中村新吾 (合唱) (一般創作)
萩原とめよ (華道) 監事 土屋忠雄
寺島郁代 (茶道) 寺島志づ
(総グループ百二十八グループ)
(総会員 一七二十名)
尚総会において今年度の活動方
針として各部会活動の充実及び文
化講演会の実施又協会費の増額等
重要問題を決定しました。

明けまして、おめでとうござい
ます。皆様それぞれ希望に満ちた
新年をお迎えの事と思います。昨
年は文化協会にご協力いただきま
して感謝致して居ります。協会だ
よりも、おかげさまで第四号が発
行となりました。もっと早くに発
行する予定が今頃になりました事
をお詫び致します。「一年の計は
元且にあり」と申されます。すべ
て計画や準備は早く整えるよう努
力し今年も一歩一歩確実に進み充
実した一年にしたいものと思いま
す。
尚各グループの責任者及び部会
長に変更のある場合は二月末日ま
でに事務局へ申し出ください。
(編集部一同)